

1月 31日(日曜日)「波乱の生涯の中でも(5)」

【新改訳 2017】

創世記 50・19、20

「ヨセフは彼ら(兄弟たち)に言った。『恐れることはありません。どうして、私が神の代わりでしょうか。あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。……多くの人々を生かしておくためでした。』」

父ヤコブが死に、ヨセフの兄弟たちが、彼が恨んで仕返しするのではないかと恐れていた時、ヨセフは兄弟に冒頭のように語りました。

ききんのためイスラエルの民はエジプトに下って来ましたが、宰相となっていたヨセフに、彼とは知らずに礼をして食糧を乞い求めるとは、なんというめぐり合わせでしょう。この時、夢は現実になったのです。神の大きなあわれみの導きによることでした。

この宰相がヨセフとわかり、感動的な再開となりました。父が死んだからといって仕返しするヨセフではありませんでした。かえって、家族を養うことを保証しました。神にゆだねる時、

波乱の生涯も大きな祝福をもたらし得るのです。

～祈り～

主よ。ヨセフの生涯と信仰の記録を感謝いたします。どうか、少しでもヨセフの信仰にならうことができますように助けてください。

【学びのために】

ヨセフには、謙虚さと分別が際立っているように思われます。それは、神への絶対的信頼として現れ、人々の悪の中でも神の善を信じ、人に復讐することはしませんでした。すばらしい信仰とはこのようなものでしょう。